

“真の近代建築には技術的よりも人間の発展に最も有益なコミュニティでの新しい生活方式のビジョンから建築の表現を引き出そうとする新しいスピリットがもっと必要なのです。” ヴァルター・グロピウス 昭和29年 広島講演より



共同住宅の高層化によって、街と住戸の繋がりが一変し、住戸の孤立化の大きな原因となっています。本計画では共用部と住戸の関わり方を根本的に見直し、コミュニティでの新しい生活様式を提案します。木造3階建ての住戸が中庭を囲み、孤立化を防ぎ、多様な世帯がゆとりある生活が営める集住体の形を設計します。

## コミュニティでの新しい生活方式のビジョン —中庭を囲む木造3階建ての住戸がつくる住環境—



20.2cm x 10.1cm = 204cm



**●中庭がつながる共同生活**  
本計画は、階段型木造3階建ての住戸群が中庭を囲む構成です。エントランスホールを抜けると中庭に出ます。入居者のみが入れる守られた中庭は、児童遊園、緑地、東屋等が配され、子どもたちが安全で自由に遊び回り、高齢者や主婦(夫)たちの憩いの場となります。中庭からプランター、テラスのある階段・スロープを通じて各戸に設けられた玄関テラスへと続きます。玄関機能を併せ持つテラスは、土間、LDKの室内空間と中庭を自然に繋ぐ役割を果たします。住戸のプライバシーを守ると同時に中庭に開放され、中庭と一体の生活を営みます。

**●安心で安全な生活**  
高齢者等の入居に配慮し、接地住戸33戸、スロープでアプローチできる2階住戸20戸とし、110戸のうち約半数を階段を使わずにアクセスできる住戸としています。センサーやデジタル技術を活用した見守り支援に加え、単身高齢者向け住戸を1階に分散配置し、入居者同士が積極的に見守りあえる住戸配置とします。

1DK住戸のテラスの前にはベンチを設け、庭を前に休憩できるスペースとし、交流を促します。

**●木の住まい**  
計画建物は木構造であり、内装のみならず構造材にも広島県産材を使用し、地域産業に貢献します。木構造とすることで、大型工事車両の進入や騒音等を抑制するとともに、工期が短縮され周辺住宅に配慮した工事計画とします。

**●計画地1、2の一体性**  
中庭は、春夏秋冬の特徴をもたせた植栽計画とし、第三上安住宅全体の交流を促します。計画地1の第五公園に面した木造の集会所は、公園も含め室内外に広く利用する事ができ、入居者の活動の可能性を広げます。計画地2の南側駐車スペースの下には防災倉庫等を設け、施設維持の支えとなるスペースとします。

型別供給計画  
計画地1: 49戸  
計画地2: 61戸 ≧ 54戸

1DK	12
2DK	49
2DK(身)	2
2LDK	25
3LDK	22
計	110

凡例  
 ■ 玄関  
 ■ 玄関テラス  
 ■ 入居者のみが入れる緑地等  
 ■ 景観緑地  
 ■ 駐車スペース  
 ■ 歩道・エントランス等  
 ■ 駐輪場等  
 ■ 集会所

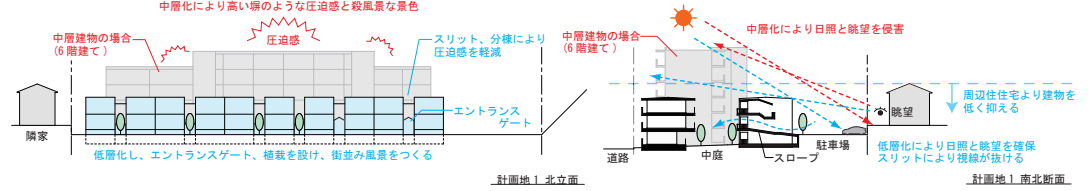
## テーマ1 「周辺戸建て住宅等に対する眺望確保の配慮や圧迫感の軽減」について

敷地周辺は低層戸建て住宅が並び住宅地です。この地域に建つ公営住宅は、周囲の風景に溶け込むものであってほしいと思います。南側に眺望のひらけた北側住宅の眼前につくられる公営住宅は、周辺住宅より低く、スケール感の近い住居群であってほしいと思います。計画地1の南側に中層建物が建つと北側住宅から距離は離れていても、高い増状となり、日照、眺望を阻害し、圧迫感を与えて

しまいます。さらに、何層にも積み重なる廊下は画一的で面白くない風景となり、北側住宅のプライバシーも損なわれます。3階建てとすることで周辺住宅より高さを低くすることができ、日照、眺望が確保され、分棟化することで圧迫感が軽減されます。また、駐車スペースに面する北側は、1、2階へ繋がるエントランスにゲート・植栽を設け、街並みの風景をつくり出します。



弊社設計のタウンハウス。分棟化、分置されたファサードは圧迫感を軽減します。

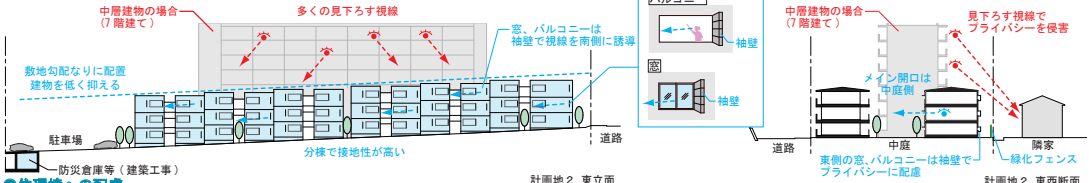


計画地1 北立面 計画地1 南北断面

## テーマ2 「プライバシーや住環境に配慮した良好な建築計画」について

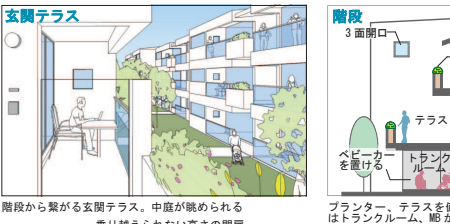
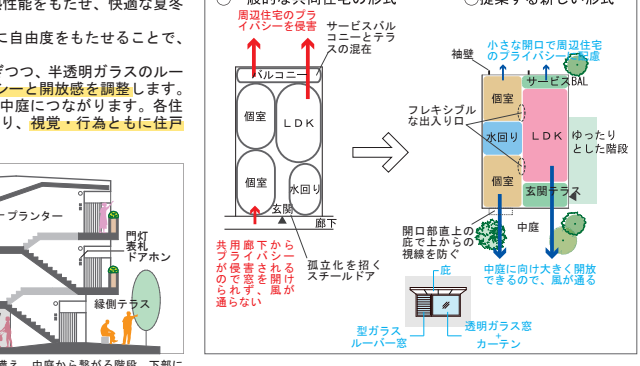
**●周辺住宅への視線やプライバシーへの配慮**  
計画地2に南北軸東向きバルコニーの中層建物が建つと周辺住宅は数多くの見下ろす視線に晒されることとなり、プライバシーが守られません。敷地の高低差は南北に4m近くありますが、階段型低層建物とすることで、階段型配りに配置でき、建物を低く抑えることができます。住戸のメイン開口は中庭に向

けられますが、東側に設けた窓・バルコニーには袖壁を設け、視線を南側に誘導し、周辺住宅のプライバシーに配慮します。1階ではプライバシーと景観に配慮し、緑化フェンスを設けます。

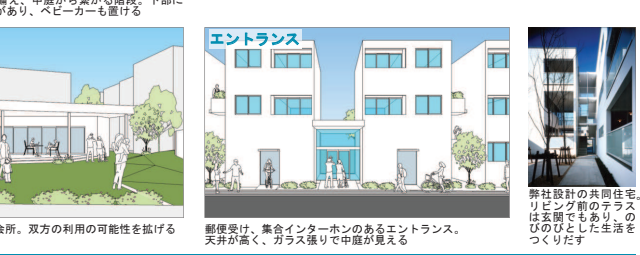


計画地2 東立面 計画地2 東西断面

**●住環境への配慮**  
各住戸は両面開口により日照・通風の良好な住戸環境を確保します。木造により断熱性、調湿性を高め、室内環境を向上します。さらに、ZEH水準仕様の断熱性能をもたせ、快適な冬の生活を可能にします。住戸内に廊下は設けず、LDKに面し個室を設け、出入口の大きさに自由度をもたせることで、世帯構成の変化に対応できるようにします。中庭側個室の窓には庇を設け、住戸同士の見下ろされる視線を防ぎつつ、半透明ガラスのルーバー窓と透明ガラスのアルミサッシカーテンによってプライバシーと開放感を調整します。住戸はリビングと一体化した玄関テラスを介し、開放感をもって中庭につながります。各住戸はプランターやテラス等を設けた階段・スロープで中庭と繋がるとともに、視覚・行為ともに住戸と中庭を連続させ、豊かな住環境をつくり出します。



階段から繋がる玄関テラス。中庭が眺められる乗り越えられない高さの門扉



第五公園に連続する集会所。双方の利用の可能性を広げる

## テーマ3 「実現性の高いコストの縮減策」について

**●構造は木造3階建て(耐火構造及び1時間準耐火構造)とします。(界床はコンクリート、階段は鉄骨造)**

○インシャルコストの縮減  
 ・エレベーター、給水ポンプアップが不要のため、電気工事を削減  
 ・工期が短縮され、工事費を縮小  
 ・低層木造なので、特殊基礎が必要  
 ・木造用アルミサッシとすることで、ビル用アルミサッシ+複層ガラスに比し、大幅なコストダウン  
 ・フレカットで対応できる構造計画とし、ロー

コスト化を図る  
 ・周辺戸建て住宅に配慮し、軒高を9.0m以下とすることで、構造選択の自由度を上げ、コストを縮減  
 ・被覆型、燃え止まり型、在来軸組工法、2×4工法、大断面集成材工法等、様々な工法の費用対効果を検討し、最適な構造設計とする

○メンテナンス・ランニングコストの縮減  
 ・屋根面、西面、北面等、条件に合わせて検討した適切な断熱計画とし、ランニングコストを下げる  
 ・エレベーター、ポンプの維持管理費が不要  
 ・低層なので修繕が容易  
 ・金属屋根、営業系サイディング外壁等によって建物の耐久性を高め、維持管理費を抑える



弊社設計の木造共同住宅。「木の暖かみ」が感じられ、入居者に好評です。